

○あさひのプロジェクト（総合的な学習の時間）の全体計画

生徒・保護者・学校の実態	学校教育目標	ともに学び 一人となる	保護者・地域・教職員の願い
【生徒】 課題と真摯に向き合い、追究する姿勢があり、意見交換が活発にできる。自己の考えが強く、受信する力が弱い。	総合的な学習の時間 第1の目標		・協働的な学習を通して、自他を大切にする態度の育成 ・体験的な学習の重視 ・探究的な学習の重視と、プレゼンテーション能力の育成 ・地域、社会への発信力の育成
【地域・保護者】 教育への関心が高く、学校の教育活動に協力的である。	本校の「あさひのプロジェクト（総合的な学習の時間）」の目標		
【学校】 校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組み、生徒と共に探究を楽しもうとしている。	探究的な見方・考え方を働かせ、デザイン思考の過程の中で「小さな実践」を繰り返し行うことを通して、自分の考えを広げ深めながら課題を解決し、実生活・実社会における自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとする意欲を高める。 (1) 日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけ、探究のプロセスを繰り返しながら豊かに学ぶ。 (2) 課題に対して、多様な角度から俯瞰して捉えながら、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目の具体的な課題に粘り強く対処し、解決しようとする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自己の生き方を考え、積極的に社会参画しようとする。		関係諸機関との連携 ・地域の方（団体） ・地域企業 ・中小企業家同友会 ・高校、大学などの教育機関 ・市役所、県庁などの地公体 ・県外の企業や団体

探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力				
学年	単元名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
一学年	これからの社会に触れる私 (50 時間) 第1 期：40 時間 第2 期：10 時間	・持続可能な社会の実現には、そこに存在する問題が人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解することができる。 ・情報収集の手段のメリットとデメリットを理解し、目的に合った情報を収集できる。 ・ウェブサイトから、検索ソフトを使って、必要な情報を収集することができる。 ・追究したことが自己の生活に関わっていることに気付くことができる。	・社会における諸問題の中から自分が追究する課題を見いだすことができる。 ・グラフなどの適切な方法で整理できる。 ・追究過程や分かったことなどをポスターやスライドにまとめることができる。 ・これまでの自分を振り返り、課題を見いだし、次の活動に生かそうとすることができる。 ・自分の大切にしたい生き方を問い直し、まとめることができる。	・自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意志で活動に取り組もうとする。 ・収集した情報の中から、伝えたいことを明確にして、ポスターやスライドを作成しようとする。 ・社会の課題を解決するために生活の中でできることを考え、取り組もうとする。 ・地域の方や企業の方など社会で生きる人との関わりの中で、社会の中での自らの生き方について考えている。
		・今の自分をつくりあげているものには、これまでの経験・体験、環境、家族、友、憧れなどの要因があることを理解することができる。 ・今の自分が様々な要因によってつくられていることから、これからの自分は自分でつくっていくことができることに気付くことができる。 ・啓発録の内容を、検索ソフトを使って調べることができる。	・これまでの自分を振り返り、課題を見いだすことができる。 ・啓発録から、自分の生き方に共感できる考え方に関する情報を収集することができる。 ・他者の考えに対して共感できる点、できない点に分類し、その根拠を示すことができる。 ・自分の大切にしたい生き方を問い直し、まとめることができる。	・今の自分をつくりあげているものを振り返り、自分の特徴やよさを理解しようとしている。 ・「私の啓発録」について、異なる考えのよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。 ・自己の生き方を考え、大切にしたい生き方を実践しようとしている。
二学年	これからの社会と関わる私 (20 時間)	・地域で働く人々の生き方を自分との関わりで考えることは、自己の生き方を深めることにつながると思ふことができる。 ・地域で働く人々の生き方とその理由を考える学習が、自己の生き方に深く関わっていくことを理解することができる。 ・収集した情報を分類し、分かりやすい方法で表すことができる。	・自分で課題を設定し、解決の見通しをもつことができる。 ・必要な情報を明確にし、目的に合った方法で情報を収集することができる。 ・目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりすることができる。 ・目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。	・課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、活動を振り返りながら、次時の活動に生かそうとしている。 ・自分の意思で、課題の解決に向かって、活動に取り組もうとしている。 ・地域で働く人々が大切にしている生き方と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。
一学年・二学年	これからの社会を生きる私 (100 時間) 第1 期：40 時間 第2 期：50 時間 第3 期：10 時間	・実社会や実生活の中に存在する課題を解決するには、他者や社会との関わりが必要であることを理解している。 ・課題に対する問題点を見だし、解決に向かうための調査活動を、適切な方法で実施している。 ・デザイン思考の過程や社会人基礎力について理解し、自らの活動の意義を考えたり、活動の見通しをもつたりすることができる。	・これまでの学習や自分自身の特徴、実践に関わる調査活動などで収集した情報を基に、実践計画を立てている。 ・計画したことを実践するために必要な資料や必要な期間などを見通して実践しようとしている。 ・実践の検証をして、実践までの過程を見直したり実践について振り返ったりしながら、課題の解決に向けて考えている。 ・社会の課題についての自らの学びを、多くの人に発信している。	・自分で設定した課題の解決に向けて、見通しをもって取り組もうとしている。 ・課題の解決に向けて、他者の意見や考えを尊重しながら、協働して取り組もうとしている。 ・自己の将来に向けて、目指す生き方を明確にしている。 ・地域の方や企業の方との関わりを通して、社会の課題を解決するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする意欲をもつ。

【学習活動】 ・「自己の生き方を考える」ことをテーマとした探究的な学習に取り組む。 ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の流れで学習を行う。 ・多様な表現方法を身に付けさせ、学習の成果を発表する場を設定する。	【指導方法】 ・生徒の課題意識を連続、発展させる支援と個に応じた指導の工夫を行い、探究的に活動ができるようにする。 ・各教科等の関連を意識して、効果的な指導を行う。	【指導体制】 ・生徒の活動の様子や活動予定などは、全職員が共通理解できるようにする。 ・単元に応じて学年体制をとり、複数の職員で指導を行う。 ・外部の人材を積極的に活用する	【学習評価】 ・視点を踏まえた単元ごとの評価規準を設定する。 ・ワークシートやレポート、振り返りの記述などの評価方法を用いる。 ・学年末には、指導計画の評価・改善を行い、次年度に生かす。
---	---	--	---

教科・領域との連携					
国語	社会	数学	理科	音楽	美術
自分の思いや考えを見直し、深め、目的や場に応じて効果的な展開を工夫し、適切に話し、文章として表現する。自分の考えを基に、構成を考え、正確に話し、文章として表現する。	必要な資料を様々な方法で集め、問題解決に必要な資料を取捨選択する。課題設定の仕方、問題解決の方法を多面的・多角的に考える。	課題解決のために、見通しをもち、筋道を立てて考える。数量や図形などに関する数学的な表現・処理の仕方や推論の方法を身に付ける。	観察などを通して、事象を実証的・論理的に考え、分析的・総合的に考察する。自然の事物現象を科学的に調べる方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。	豊かで美しい響きや楽器の特長を生かして曲にふさわしい歌唱や演奏をする。歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。	自分の主題をもち、画面構成などを考え、生き生きと表現し、構想する。表現の意図に応じて材料や用具の特性、その生かし方を考えて表現する。
保健体育	技術・家庭科	英語	特別の教科 道徳	特別活動	
協働の経験を通して、公正・協力・責任などの態度を身に付ける。安全について考え、判断する。	地域の生活環境をよくするために、自分たちができる生活の工夫について考え、行動する。地域の生活に関心をもち、高齢者や幼児など異なる世代の人々との関わり方を学ぶ。	主体的にコミュニケーションを図る。自分の考えていることを簡単な英語で表現し、相手の言いたいことを理解する。	教材を通して自己をみつめたり、他者と対話したり協働したりすることを通して物事を多面的・多角的に考えるときともに、自分の生き方についての考えを深める。	望ましい人間関係と自他を尊重する集団の育成を図る。生徒一人一人の自主性と社会性を育成する。	

○ 3年間の構想 ※令和8年度完全実施（令和6年度は移行期）

自己を振り返る → 社会に触れ、他者から学ぶ → 社会と関わる → 社会を生きる → 未来を見つめる		
1 学年	2 学年	3 学年
○「あさひのプロジェクト」ガイダンス ※3年間の学習を通して、自己の生き方を考えていくことを確認する。 ※1年生の活動から、デザイン思考の過程を意識して活動が進められるよう確認する。 「これからの社会に触れる私」(第1期) (40時間：4～12月) ○よりよい社会を目指した活動に向けたコースに分かれて、グループ活動する 【R5年度のコース】 学校をよりよくしよう、地域の魅力発見、農業の未来を考える、防災—その時自分に何ができるか、縦横から未来を考える ○課題の設定 ・現代的な諸問題から関心のある問題を選択する。 ○情報の収集・整理・分析 ・どのような方法で情報を収集できそうか考える。 ※中学校では一人でも探究のサイクルを回すことができるようになることを目標にする。 ＜探究のサイクル＞ 「課題の設定」 → 「情報の収集」 ↑ ↓ 「まとめ・表現」 ← 「整理・分析」 ☆友の探究の仕方（調査の仕方、整理の仕方、まとめ方等）で参考になったものを取り上げ、そのメリット・デメリット、効果等を全体で共有していく中で、探究の仕方を学ぶ。 ○まとめ・表現（学級、学年発表会） ・友のアドバイス等を参考にしながら、自身の発表内容を振り返り、改善する。 ＜ヒューマン・ウィーク（7月）＞ ○収集した情報を整理・分析し、新たな課題を立てて実践を進めていく。 ○実践の内容に関わる地域の方や専門家と連携していく。 ○問題発見 ・よりよい社会の実現に関わる問題に対して具体的な取組をされている方の講演を聞く。 ○課題の設定 ・これまでの探究や講演会を基に課題を設定する。 ○活動の見直し ・コースごと、ヒューマン・ウィークの中でどのような方法で情報を収集するか決め出す。 ☆実社会に起きている問題を自己の生活と関わらせて考える。	○「あさひのプロジェクト」ガイダンス ※地域社会と関わりながら、自己の生き方を考えていくことを確認する。 ※自己の生き方と「社会人基礎力」とのかかわり意識して活動が進められるよう確認する。 「これからの社会と関わる私」 (20時間：4～8月) ○問題発見 ・「私の啓発録」を振り返る。 ・講演会（1～2回） 【R5年度の講師】 ・中小企業家同友会常務理事 小林敬二さん ・元プロサッカー選手 大橋良隆さん ○課題の設定 ・講演会を通して触れた生き方を基に、自分が追究する生き方を決め出す。→「私の『14歳の問い』」 ・自分が大切にしたい生き方を捉え直し、新たな課題（問い）をもったり、自分がすべきことを考えたりする（見直し） ○情報の収集 ・幼稚園や福祉施設などで仕事を体験したり、働く人にインタビューしたりする。（社会見学） ○整理・分析 ・社会見学に行く前と行った後の課題に対する自分の考えを比較する。 ○まとめ・表現 ・社会見学での学習を基に、学級や学年の友と社会見学から得たことを語り合う。 ○課題の設定 ・学年内の発表会を終え、課題を見直す。 ・課題を追究するための見直しを立てる。 ・どのような視点をもって情報を収集していくか見直しを立てる。 ☆生徒が社会人基礎力を意識できるよう支援する。 【社会人基礎力】 ・「前に踏み出す力」 ・「考え抜く力」 ・「チームで働く力」 ☆実践を通して地域で働く人々の生き方を自分との関わりで捉える。 ＜ヒューマン・ウィーク（7月）＞ ○社会体験学習 ○社会体験学習の学びをスライドにまとめる。 ○企業の方を招いたワークショップ ・ヒューマン・ウィークのまとめの発表や座談会	○「あさひのプロジェクト」ガイダンス ※これまでの学習を基に、これからの社会における自己の生き方を考えていくことを確認する。 「これからの社会を生きる私」(第2期) (50時間：4～12月) デザイン思考と小さな実践 ○ステップ1：共感・理解 ・実生活、実社会の諸課題に対して、関わる企業を訪問したり、調査を行ったりして、実社会の諸課題についての「共感・理解」を深める。 ○ステップ2：問題定義 ・集めた情報を整理し、多面的・多角的に考察したり、企業等からアドバイスをもらったりして、最も解決すべき問題点を想像しながら「問題定義」をする。 ○ステップ3：発想・創造 ・定義された問題とチームの個々がもつ強みや技能を照らし合わせながら、解決策を「発想・創造」する。 ○ステップ4：試行 ・企業等からアドバイスをもらいながら、実行可能な解決策を基に、問題解決の仮説を立案し、実践の計画を立てる。 ○小さな実践（アウトプット） ・チーム内で決めた解決策を、本番に近い環境で実践できる環境で、簡単な実践をする（プレテスト）。 ・成果発表会で発信・調査活動をする。 ○ステップ5：検証 ・仮説に基づいた小さな実践を行った後、準備や実践について、評価やアンケートを基に検証する。 ☆生徒がデザイン思考を意識しながら活動を進められるよう支援する。 ☆「小さな実践」をくりかえすことで、「活動の見直しをもつこと」「活動内容の見直し」「実社会との関わり方」などを学ぶ。 ＜ヒューマン・ウィーク（7月）＞ ○収集した情報を整理・分析し、新たな課題を立てて実践を進めていく。 ○実践の内容に関わる地域の方や専門家と連携していく。  成果発表会（7・12・2月） 学習発表会（10月） 附属長野中ワークショップ（11月） ○まとめ・表現 ・自らの1年間の活動をふりかえり、社会と自分とのつながりや社会の中での自分の役割、について考えたことや大切にしたいことをポスターやスライドにまとめる。 ＜発表の場として考えられるもの＞ ○成果発表会…各グループの活動の様子を、他のグループや地域の方、保護者、他の中学校に向けて発信する。 ○学習発表会…活動の様子や活動の成果を全校や保護者に発信する。 ○近隣の中学校・高校・大学と連携する。 ○新聞・テレビ・SNS等で活動を発信する。 「これからの社会を生きる私」(第4期) (10時間：1～3月) ○まとめ・表現 ・活動のまとめをし、引継ぎ資料を作成する。 ・後輩たちに対して、探求的な学習を進める上で大切なことや後輩たちの悩みなどに対してアドバイスをを行う。 ○3年間の「あさひのプロジェクト」で得た知識や考え方、経験を振り返り、自分自身にどのような学びや成長があったかを振り返る。 ○自分は将来何をを目指すのか、これからすべきことは何か、どのような大人になりたいかをレポートとしてまとめる。 ○後輩や保護者への発表に向けて準備を進める。